

特集「栃木県青少年育成県民会議表彰」優良青少年団体の紹介 ～栃木県立国分寺特別支援学校 地域への貢献活動～

本校は、昭和58年4月開校の知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校です。下野市・小山市・上三川町・野木町の2市2町を通学圏とし、小学部100名、中学部65名、高等部100名の合計265名の児童生徒が在籍しています。

下野市と小山市の境に立地し、南には、お菓子メーカー等の工場が建ち並び、時折、チョコレートの香ばしい香りが風に乗って感じられ、西には、渡り鳥も飛来する大沼公園がある自然豊かな環境で日々学習に取り組んでいます。

今回は、中学部と高等部の合同クリーン活動と高等部作業班*（サービス班）による地域への貢献活動を紹介します。

学校近隣のクリーン活動は、中学部と高等部の合同で長年行ってきました。居住地域別に生徒を縦割り18のグループに分け、学校近隣を高等部生がリーダーとなって中学部生と一緒にグループで協力して清掃活動を行います。普段、関わり合うことがない年齢差のある生徒同士ですが、同じ地区に住んでいることもあり、高等部生は「そこにゴミあるよ。」「危ないからそっち行っちゃだめだよ。」などと優しく声をかけてあげています。他方、中学部の生徒は、普段関わることの少ない高等部のお兄さん、お姉さんから関わってもらおうと、教師が関わる時よりもスムーズに活動に移れたり、普段手をつながないような生徒も高等部のお兄さんお姉さんと一緒に手をつないで歩くなどの様子も見られ、子ども同士のよい学び合いの活動として定着しています。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策上、衛生面から中学部と高等部の合同の校外でのクリーン活動は行わず、校内清掃をグループ毎に行うなどに形を変えて行いました。

次に、高等部のサービス班による地域のクリーン活動や除草等の地域貢献活動を紹介します。本校には約20名の生徒がJR宇都宮線の小金井駅を利用して通学しています。毎日通う駅前や通学路を清掃し、地域の役に立とう、自分たちのことを地域の人にも知ってもらおうという思いで地域への貢献活動を開始しました。

サービス班では高等部の生徒15名が作業学習の時間に活動を行い、駐輪場の職員の方や通り沿いの病院の院長先生、自治会長さんなどから感謝の言葉をかけていただきました。時間の都合で、すべてをきれいに終えることはできなかったのですが、「また来てやりたい。」など前向きな声が生徒から出されました。他にも、近隣のバス停周辺や道路の清掃、落ち葉掃きなどを行うことができました。

コロナだからこそ、大きな人数でできない少人数での活動を考え、実践する契機となりました。今後は、コロナが収束することを願いながら、合同でのクリーン活動と高等部作業班による地域への貢献活動を併せた活動などを展開し、継続し続けたいと思います。

栃木県立国分寺特別支援学校 高等部主事 鈴木 智洋 氏 寄稿



*高等部では火木に作業学習の時間を設定し、1年生から3年生を縦割りの木工・縫製・農業・紙工・軽作業・サービスの6つの作業班に分けて働くために必要な学習を行っています。